

令和元年6月21日現在

機関番号：35406

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03707

研究課題名(和文)人口減少社会における外国人労働力の再編に関する研究

研究課題名(英文) Research on Restructuring of Foreign Labor in Population Declining Society

研究代表者

伊藤 泰郎 (ITO, Tairo)

広島国際学院大学・情報文化学部・教授

研究者番号：80281765

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,100,000円

研究成果の概要(和文)：現在の日本では、人口減少とグローバル化が進展する中で、「周縁労働力」としての外国人労働力の再編が加速化する状況にある。本研究では、日本国内の各地域において、技能実習生や日系外国人を主な対象として製造業や農業などにおける外国人労働力の新しい動向を明らかにした。また、こうした外国人労働力の再編は、日本国内の動向だけではなく、送り出し側の状況やその社会における日本のプレゼンスの変化もあわせて理解することが不可欠であることから、フィリピン・ベトナム・タイ・ラオス・ブラジルなどにおいて現地調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間中に新たな法律が施行された技能実習生、在留者数が急増しているベトナム人、2016年から在留者数が増加に転じたブラジル人など、現在状況が大きく変わりつつある対象を取り上げた点や、日本国内だけでなく送り出し側の状況もあわせて研究を行った点に研究上の意義がある。また結果的にはあるが、日本国内の調査の多くを地方で行ったことも意義があると考えている。また、2019年4月に改正入管法が施行されるなど、日本の外国人労働者政策が大きく転換している時期において、今回の研究成果は社会的なインパクトを持ち得るものであると言えるのではないかと。

研究成果の概要(英文)：In Japan, as population decline and globalization progress, restructuring of foreign labor as “peripheral labor” is accelerating. Our surveys in various regions in Japan revealed new trends of the foreign labor force in manufacturing industry and agriculture, mainly for technical intern trainees and Nikkei foreigners. In addition, it is essential that such restructuring of the foreign labor force be understood with the social context of sending state and the change in Japan's presence, so we conducted surveys in the Philippines, Vietnam, Thailand, Laos and Brazil.

研究分野：社会学

キーワード：外国人 移住労働者 移民 エスニシティ 技能実習

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本政府は2020年の東京五輪の成功や震災からの復興、女性の活躍推進などを旗印に、周縁労働に従事する外国人労働者の受け入れのさらなる拡大を図っている。2014年4月に行われた第4回経済財政諮問会議及び第2回経済財政諮問会議・産業競争力会議合同会議で、安倍首相は「徹底したグローバル化」を推進するために「移民政策と誤解されないように」「外国人材の積極的な活用に取り組む」必要性を述べている。それに呼応する形で、外国人技能実習制度の実習期間の延長（建設・造船業で5年）や介護への拡大的運用、経済特区（大阪、神奈川）における外国人家事労働者の受け入れが進められている。

こうした動きは、外国人を社会の構成員としてではなく労働力として受け入れてきた従来の日本が採ってきた政策の延長上に位置付けられるが、同時にそれは人口減少とグローバル化が進展するなかで「周縁労働力」としての外国人労働力の再編が加速化していることを意味している。本研究は、このような展開の実相を明らかにしようというものである。日本社会を支える外国人労働者がどのような条件の下でどのような労働に従事し、いかなる問題に遭遇しているのか、また、どのような外国人が新たに受け入れられようとしているのか、そしてそれはどのような労働現場であるのかを、統合的な視点から具体的かつ動的に把握することが求められている。また、外国人労働者や移民の実態を認識するためには、日本国内の動向だけでなく、送り出し側の状況やその社会における日本のプレゼンスの変化を理解することが不可欠である。日本と同様に外国人労働者を受け入れている東アジア・東南アジア諸国ではその受け入れ要件が緩和される方向にあることも、送り出し国における日本のプレゼンスに影響を与えている。いまや「周縁労働力」はグローバルに争奪されているのである。日本国内では「周縁労働力」としての外国人労働力の需要の高まりに議論が集中しているが、供給する側からの視点をふまえないと日本における外国人労働力の再編を正確に理解することはできない。

2. 研究の目的

技能実習生、日系人、新日系人、アフリカ人労働者、ケアワーカー、セックスワーカーを事例に、現代日本社会における外国人労働力の再編の実証分析をグローバルな視座から行う。

<研究期間内に明らかにすること>

- ・外国人技能実習制度の実態とその拡大運用の影響を明らかにする。
- ・実習期間が延長された業種（建設・造船）における受け入れ実態
- ・農林漁業における外国人技能実習生の参入の拡大
- ・近年顕著な増加がみられるベトナム人技能実習生の実態
- ・技能実習生、日系人、新日系人、アフリカ人労働者などの(再)配置の実態を明らかにする。
 - ・世界同時不況後の製造業における外国人労働力の再配置の状況
 - ・日系人の定住化と新たな業種への参入状況
 - ・新たな外国人労働力（新日系人・アフリカ人労働者など）の周縁労働市場への参入状況
 - ・外国人労働者の支援団体における相談内容の変化
- ・ケアワーカーおよびセックスワーカーの就労の実態を明らかにする
 - ・経済特区における外国人家事労働者の受け入れの実態
 - ・介護労働における外国人労働力の再配置の状況
 - ・観光化が外国人セックスワーカーに与える影響
- ・外国人労働者の送り出し国における日本のプレゼンスの変動を明らかにする。
 - ・送り出し国の社会経済状況と海外での就労を目指す者の意識の実態
 - ・送り出し国の海外雇用政策、送り出しシステム
- ・上記 ~ を統合的に分析し、人口減少が進む日本社会における外国人労働力の再編を考察する。

3. 研究の方法

今回の調査研究では、移住労働研究、エスニシティ研究、都市下層研究などの領域でこれまで取り組んできた各研究者のテーマを発展させ、「日本における外国人労働力の再編状況」について、大都市部・地方中核都市・農山漁村のそれぞれのフィールドにおいて明らかにするとともに、その背景となる「送り出し国の現状と今後の変化」をフィリピン、タイ、ベトナム、南米、アフリカで明らかにする。そのため以下の研究分担体制によって調査研究を実施する。

<研究内容>

- 1) 日本における外国人労働力の再編状況を明らかにする。具体的には、行政機関、業界団体、外国人労働力の受け入れを行っている機関ならびに企業、被雇用者である外国人、外国人とともに働く日本人、移住労働者を支援する団体などへのインタビューを行う。

大都市部（東京都市圏）：技能実習生（建設など）

・サブテーマ：技能実習制度の変容と下層労働市場の変化にともなう建設労働市場の再編

大都市部（東京都市圏・大阪都市圏）：ベトナム人技能実習生、新日系人、アフリカ人労働者

・サブテーマ：新たな移住労働者の都市周縁労働市場への参入

大都市部（東京・大阪）：介護・家事労働者、セックスワーカー

- ・サブテーマ：政策の変化がもたらした再生産労働に従事する外国人労働力の再編
大都市周縁部の工業地帯（群馬・埼玉・千葉）：日系人
 - ・サブテーマ：日系人の定住化の進展と新たな業種への参入
地方中核都市（広島都市圏）：技能実習生（製造業など） 日系人、新日系人など
 - ・サブテーマ：地域労働市場の変化にともなう外国人労働力の再編
農山漁村（長野、広島、香川、熊本）：技能実習生（農業・漁業・食品加工など） 新日系人
 - ・サブテーマ：産業構造の変化と過疎化・高齢化の進展に伴う外国人労働力の参入の拡大
- 2) 日本への外国人労働力の送り出し国の現状と今後の変化を明らかにする。特に日本のプレゼンスの変動に焦点を当てる。具体的には、現地の行政機関、外国人労働力の送り出し機関ならびに企業、日本での労働経験者、外国での労働を目指す者などへのインタビューを行う。
これまで日本に労働力を供給してきた地域
 - ・フィリピン、タイ、南米（ブラジル、ペルーなど）
 今後日本に労働力への労働力の供給が増加すると思われる地域
 - ・ベトナム、アフリカ（ナイジェリアなど）
 - 3) 介護・家事労働者の供給・受け入れを行ってきた地域を対象として、現状と今後の変化を明らかにする。具体的には、現地の行政機関、送り出し機関・受け入れ機関、日本での労働経験者、外国での労働を目指す者などへのインタビューを行う。
・フィリピン、ベトナム、香港
 - 4) 日本における周縁労働市場の変化について主として文献資料の検討から明らかにする。具体的には、先行研究のレビューを行うとともに、国勢調査・就業構造基本調査をはじめとする各種政府統計、関連団体の機関紙、新聞などの検討を行う。必要に応じて大都市部における実地調査も行う。
 - 5) 日本の外国人労働力の受け入れ政策の変容をリアルタイムでおさえるとともに、外国人支援団体の相談内容の変化からその影響を総合的にとらえる

4. 研究成果

主な研究成果は以下の通りである（いずれも、最終年度末に作成した報告書に掲載したものである）。

- 1) 「外国人雇用状況」の届出状況や在留外国人統計から、特に2008年の世界的金融危機以降の外国人労働者数の動向を明らかにした。この10年間の変化としては、中国とブラジルの労働者の比重が相対的に低下する一方で、ベトナムとネパールの労働者が急増したことがまず挙げられる。中国とブラジルの構成比が高かった「製造業」や「他に分類されないサービス業」、中国が多数を占めていた「卸売業、小売業」と「宿泊業、飲食サービス業」では、中国やブラジルの構成比が低下した分だけ、ベトナムとネパールの構成比が上昇していた。また、外国人労働者が従事する産業は、製造業の比重が少しずつ低下するとともに多様化していく傾向が見られた。また、ここ数年の大きな変化として、2015年ないしは2016年頃から、外国人労働者数の急増が始まったと思われることが挙げられる。外国人労働者全体の増加率の上昇に加え、一時期停滞・減少していた中国やブラジルの増加率が再度上昇していることも指摘できる。建設業に従事する労働者はまだ多くないが、増加率は2014年から高い水準で推移している。ブラジルの在留者数は、2008年の世界的金融危機後に続いた減少が終わり、2016年から増加に転じた。来日する人々の年齢層は幅広く、在留者数が増加を示す都道府県も2000年代と比較して広範囲に及んでいる。
- 2) リーマンショック後に日本に残り続けた日系人は、日系ブラジル人コミュニティに「孤立していること」が困難になり、現地地域社会に何らかの形で溶け込むことを余儀なくされることとなった。その「地域に溶け込む」興味深い例として、埼玉県上里町を中心にした日系ブラジル人の新規就農事例に注目した。本研究で取り上げた日系ブラジル人による人材派遣業者は、リーマンショック以前は製造業に日系人を派遣していたが、リーマンショック後に農業生産へと新たに業務を展開し、2018年現在では全国でも最多の深谷ネギ生産を誇る。こうした事例は全国的にはまだまだ数は少ないものの、今後、議論の必要性は高まるとおもわれる。なぜならば、失業した在日日系人を多く抱える地域とは、大都市圏近郊にありながら距離的に通勤圏とはなりにくく、従って地価が安いゆえ、下請け工場が立地しやすい地域である。そして更に重要な点は、それと同時に、大都市圏への輸送条件の利便性から、稲作以外にも、葉野菜や果樹など労働集約的な農業に関して有利な条件下にあること、そして労働集約的な農業ならば一層のこと、高齢化の影響が強く働き、耕作放棄地の発生しやすい地域でもあることである。
- 3) 輸送園芸産地は、都市部の消費者に生鮮野菜を通年で供給するための生産空間として高度成長期に各地に形成されてきた。消費地における安定供給の裏面として、それぞれの園芸産地における労働需要は極端に季節変動し、ここに外部からの労働を限定して需要する契機があった。この意味で季節雇は、戦後に構築された日本のフードシステムが構造的に要請するパツファとして機能していたといえる。長野県の調査でみたその現代的姿は、寮つきの仕事を渡り歩く漂泊性の高い日本人の不安定就労層であった。彼らが働く高冷地園芸の収穫労働市場は間口がひろく、感情労働をあまり必要としないものの、仕事は肉体的な強度が高く賃金は低かった。またその労働と収入は作物や天候に依存することもあり季節内でも不安定であった。調査地域において現在進行する外国人労働者の急増は、園芸産地が単に「数」とし

- ての人手不足から外国人労働者を求めたというより、園芸産地の季節労働市場における「さらに」柔軟で従順な労働力へのリストラクチャリングとして捉え返す必要がある。したがって農業就業人口の減少などから外国人労働者の増加を短絡するのではなく、あるいは単に規模拡大による経営発展とみなすのではなく、生産現場における「人間の脆弱性を利用した集約化」という側面に今後注目する必要がある。
- 4) 日本(広島、山口、福岡)やフィリピン(マニラ、ダバオ)などにおける調査から、技能実習制度と「恩顧」の機能について考察した。一般的に、職場における「温情」や「庇護」は、労使関係と切り離してポジティブに捉えられることが多い。また、現場で技能実習生と接している日本人が、労働力を「収奪」するために意図的に親切にしているとは言えない。しかし、そのような日本人労働者の「親切心」も、現行の技能実習生制度のなかでは「恩顧」という形で技能実習生を黙って働かせる仕組みに組み込まれている。地域レベルでは、外国人技能実習制度の改善に向けて、技能実習生に対する日本語教室や、相互理解のための国際交流の場が模索されている。しかし、各地で起こっている技能実習生の「問題」の根源は、日本人と技能実習生のミス・コミュニケーションではないし、彼/彼女らは国際交流のために来ているのでもない。したがって、使い勝手の良い労働力を逃がさないことに専念しているような受け入れ体制のもとでは、これらの「交流」も形を変えた恩顧となりかねないことを指摘した。
 - 5) 建設業と外国人労働者の関係について、外国人労働者の支援団体などへの聞き取りを行うとともに、先行研究・既存統計の整理を行った。建設業の特性や建設業における外国人労働者の受け入れについて、寄せ場における外国人労働者の状況も踏まえつつ、資格外就労者(1989年の入管法違反により摘発された外国人労働者の稼働区分では「建設業関係」が1位、男性だけで見ると摘発人数全体の5割弱を占めていた)と技能実習生(2号移行申請者がじわじわと増加し、2010年代に入るとそのペースが加速している)を中心にまとめた。2014年には「外国人建設就労者受入事業」が開始されたが、必ずしも制度創設の目論見ほどには外国人労働者の受け入れは進んでおらず、その背景の論点整理も行った。
 - 6) 技能実習生の送出国が中国からベトナムに移行していることから、これまでの外国人労働者や技能実習生の調査研究の蓄積の上に、現在、ベトナム人技能実習生に関する研究が積極的に展開されている。一方、個人を外国での労働へと促すプッシュ要因については、送出国による労働者送出国の仕組みを分析する研究やベトナムから韓国への移住労働の要因を分析した研究はあるものの、その他の多様な要因についてはまだ十分に検討されていない。さらに、技能実習生個人に関しては、いまだ「発展途上国から出稼ぎに来る外国人」といった理解に留まっている感がある。このような状況を踏まえ、統計データや人民委員会の幹部、元技能実習生への聞き取り調査の結果を通して、海外での就労の増加にベトナム農村の工業化の影響について考察を行った。そして、帰国した元技能実習生への聞き取り調査をもとに、個人がいかなる意識に基づき海外で働くことを選択するのか、いかに労働の経験をとらえているのか、その経験が帰国後の生活にいかなる影響を与えるのかといった点についても明らかにした。
 - 7) タイから日本へという人の流れやタイの社会変化等を踏まえた上で、タイ人技能実習生を送り出す機関やそれにかかわるブローカー/リクルーター、そして当事者である技能実習生への聞き取り調査を行った。東北部と北部の二つの地域はバンコクなどの国内都市部や中東諸国や台湾等へ多くの出稼ぎ労働者を送り出してきたが、長い間、それは最低限の暮らしさえ立ち行かないほどの貧しさがそこにあり、そうした状況から抜け出さるための方途であるとしてとらえられてきた。しかし、絶対的ともいえるような貧困はかなりの程度減少する一方、東北部や北部の農村から国内都市部や海外への移住労働に行く者はむしろ増えている。こうした現状を理解するためには、経済格差の拡大と消費社会化という2つの視点が鍵であることが明らかになった。
 - 8) 在日アフリカ人労働者対象に、来日経緯、労働や生活状況について調査をおこなった。調査地域は東京、名古屋、京都などの大都市圏以外に、青森、静岡、広島といった地方に暮らす人びとも対象とした。地方在住者は、派遣会社などによって居住地域を選ばざるをえなかった場合が多いが、大都市と比べて、地方居住のメリットを見出し、独自の人間関係をつくっていることが明らかとなった。日系人、技能実習生とは異なる、在日外国人の状況をわずかながら示すことができた。また、在留資格の違いが、在日アフリカ人の移動や労働に大きく影響しており、今後の法制度や国内経済状況の変化が、かれらの生活にどのような影響を与えるのか継続してみていく必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

坂梨健太、外国人技能実習生の国籍変化: 熊本県の施設園芸を中心に、農業と経済、査読無、83(6)、2017、33 - 38

青山薫、「移住セックスワーカー」に対する暴力を防ぐには、現代思想、査読無、47(5)、2019、83 - 91

坂梨健太、日本の地方に暮らすアフリカ人、アフリカレポート、査読無、57、2019、40 - 46

<http://hdl.handle.net/2344/00050842>

〔学会発表〕(計18件)

Yoshida, Mai、Foreign Trainee System and Japanese-style Management: Intimate attention and exploitation, Hokkaido Summer Institute, Hokkaido University (招待講演)、2016

Aoyama, Kaoru、The Impossibility of Policing Trafficking: Prioritising the lived experiences of

migrants in the sex industry, The Toyota Foundation & National Research Foundation of Korea Colloquium on 'Integration of Migrants and Social Policy Issues' (招待講演) 2016

Aoyama, Kaoru, Migration and the New Mode of Reproduction, The 4th MMC Regional Conference in the Era of Transnational Migration (招待講演) 2016

Aoyama, Kaoru, The Fine Lines: Migration, Trafficking, Care and Sex Work, The SCMR Migration Series Seminar (招待講演) 2016

坂梨健太・崔博憲, 熊本県における外国人農業技能実習生の現状 送り出し/受け入れ双方の視点から、第63回日本村落研究学会大会、2016

SAKANASHI Kenta, African newcomers in regional cities of Japan, Japan Association for Human Security Studies, 2017

Aoyama, Kaoru, Co-chair for Migration and Community Building Session, The 8th Kobe University Brussels European Centre Symposium: EU-Japan Initiative for Excellence, 2017

Aoyama, Kaoru, Discussion on Social Research and Cultural Studies Session, Japan-Asia-Europe Comparative Symposium on Migration, Multiculturalization and Welfare, 2017

青山薫, 性風俗の仕事を 暴力と犯罪から遠ざけるために ~国内外の当事者運動・政策に学ぶ~, 港区立男女平等参画センター(リーブラ)講座, 2018

青山薫, 性風俗産業における 当事者参加行動調査と研究倫理, 第91回日本社会学会大会, 2018

Aoyama, Kaoru, Migrant sex workers in Japan, 30 years on, The 5th MMC Regional Conference: Foreign Workers, Marriage Migrants and Displaced Persons, Institute for Population and Social Research, Mahidol University, 2018

崔博憲, The Dynamics of Migration in Japan :Focus on Thai Workers, チェンマイ大学人文社会学部 セミナー(招待講演) 2019

崔博憲, マイノリティを生きるとは, 第2回共生フォーラム, 2018

崔博憲, 外国人労働者問題とは何か, 2019年春闘討論大会, 2019

MAI YOSHIDA, Exclusiveness and Slavishness Imposed on Japanese Foreign Laborers: In the Case of Technical Intern Trainees, XIX ISA WORLD CONGRESS OF SOCIOLOGY, Toronto, Canada, 2018

MAI YOSHIDA, Exclusiveness and Informality Imposed on Nikkei-jin and other Filipino migrants in Japan, 4th Philippine Studies Conference in Japan : Three Decades of the Post-EDSA Philippines, Hiroshima University, 2018

川越道子, ベトナム人技能実習生の支援の現状と課題, 北海道ベトナム研究会, 2018

坂梨健太, 地方における在日アフリカ人の労働, 日本アフリカ学会第55回学術大会, 2018

〔図書〕(計6件)

床谷文雄・青山薫・大阪司法書士会家族法研究会, 日本加除出版, 超高齢社会の家族法と法律実務 無縁後見 遺言 遺留分, 2018, 420

安里和晃, 高谷幸, 青山薫, 李恵景, 王宏仁, 原めぐみ, 櫻田涼子, 上野加代子, 五十嵐誠一, 京都大学出版会, 国際移動と親密圏: ケア・結婚・セックス, 2018, 310

ブブ・ド・ラ・マドレーヌ, 要友紀子, 宇佐美翔子, 山田創平, 松沢呉一, 畑野とまと, 東優子, 青山薫, 篠原久作, 岡田実穂, いまいまきまき, 宮田りりい, あかたちかこ, 日本評論社, セックスワーク・スタディーズ, 2018, 254

Susan Dewey, Isabel Crowhurst, Chimaraoke Izugbara, Kaoru Aoyama, and 85 others, Routledge, Routledge International Handbook of Sex Industry Research, 2019, 620

荒川章二, 許時嘉, 宋連玉, 富永悠介, 西井麻里奈, ソアレス・モッタ・フェリペ, アウグスト, 謝花直美, 杉原達, 崔博憲, 青弓社, 戦後日本の 帝国 経験, 2018, 320

文貞實, 伊藤泰郎, 内田龍史, 北川由紀彦, 山口恵子, 崔博憲, 仁井田典子, 朝倉美江, 山本かほり, 西澤晃彦, 松籟社, コミュニティ・ユニオン, 2019, 344

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 北川由紀彦

ローマ字氏名: KITAGAWA Yukihiko

所属研究機関名: 放送大学

部局名: 教養学部

職名：准教授
研究者番号（8桁）：00601840

研究分担者氏名：西澤晃彦
ローマ字氏名：NISHIZAWA Akihiko
所属研究機関名：神戸大学
部局名：国際文化研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：20245658

研究分担者氏名：吉田舞
ローマ字氏名：YOSHIDA Mai
所属研究機関名：特定非営利活動法人社会理論・動態研究所
部局名：研究部
職名：研究員
研究者番号（8桁）：50601902

研究分担者氏名：崔博憲
ローマ字氏名：SAI Hironori
所属研究機関名：広島国際学院大学
部局名：情報文化学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：60589373

研究分担者氏名：青山薫
ローマ字氏名：AOYAMA Kaoru
所属研究機関名：神戸大学
部局名：国際文化研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：70536581

研究分担者氏名：中田英樹
ローマ字氏名：NAKATA Hideki
所属研究機関名：成蹊大学
部局名：アジア太平洋研究センター
職名：客員研究員
研究者番号（8桁）：70551935

研究分担者氏名：坂梨健太
ローマ字氏名：SAKANASHI Kenta
所属研究機関名：龍谷大学
部局名：農学部
職名：講師
研究者番号（8桁）：90749128

研究分担者氏名：川越道子
ローマ字氏名：KAWAGOE Michiko
所属研究機関名：大阪市立大学
部局名：人権問題研究センター
職名：特別研究員
研究者番号（8桁）：70617068

(2)研究協力者
研究協力者氏名：四方久寛
ローマ字氏名：SHIKATA Hisanori

研究協力者氏名：飯田悠哉
ローマ字氏名：Iida Yuya